



運命のいたずら

すでにトピックスでもお知らせしていますが、コツメカワウソのアンズがとても残念な結果となってしまいました。オスのジュンを今月初めに迎え入れ2頭の新しい生活を始めようとしていた矢先の出来事でした。本欄でも、前回に取り上げましたが、この春新たに入る動物たちの中でも、私自身、とても期待していたペアでした。一体何があったのか、しばらく信じられない感じで、まさに運命のいたずらとしか思えない事態でした。

当園からは、死因は急性呼吸器不全と発表しました。前日まで、採餌を含め何も問題がなかったアンズ。一体何が…。ここからは飼育員との話を含め、私の推測での話となります。死因の急性呼吸器不全は、言わば突然の呼吸困難です。朝、発見した飼育員の話では、アンズはプールの中に浮いていたということです。この話から想像できることは…そう、溺れたのではないのでしょうか。カワウソは水辺の環境で生息し、もちろん泳ぎは得意です。スイスイと潜って餌を追いかける姿をみたお客様もいることでしょう。しかし、彼らも肺呼吸の生き物。気道を確保できなければ呼吸ができず死に至ります。では、何がそうさせたか。そこには、呼吸できない外的要因が加わったということも考えられます。その外的要因とは。



実は亡くなった日の前の晩、日立の中心部ではとても大きな雷が発生しました。普通雷は、遠くから雷鳴が近づいてくるものですが、この時は夜9時頃、突然、ドーンという衝撃で雷音が炸裂したのです。私は、近所の飲み屋さんで一杯やっていたのですが、突然の衝撃音に一瞬、雷とは思わず何かの爆発かと思ったほどで、常連さんも皆びっくりしていました。次の日、園の報告では、雷（落雷？）の影響で、公園のトイレのブレーカーも落ちたとのこと。それほどの雷の急襲に、小さな動物たちも大きな衝撃を受けたのではないのでしょうか。

カワウソの獣舎はプールの中央がデッキとなっていてそこに小屋があり、小屋との出入りは自由になっています。たまたまデッキに出ていたアンズは突然の雷に驚いてプールへ転落

し溺れたのか、あるいは雷のショックそのもので絶命しプールへ落ちたのか、またはプールに入っているときこうした現象が起こったのか、真相は不明ですがいずれにしても呼吸器不全の遠因として、突然の雷という自然現象をあげることもできるのではないのでしょうか。もちろん、内的要因も調べるため臓器検査を専門の機関に依頼していますが、なんとか現時点で自分自身を納得させるための仮説として述べてみました。

アングの訃報以来、たくさんのファンや来園者の方からメッセージや献花などが届けられています。園内の動物の中でも、特に皆さんから可愛がっていただいた動物で、皆さんが悲しみに暮れている様子がひしひしと伝わってきて、やるせない思いでいっぱいです。アングへの弔意に対しこの場を借りてお礼申し上げます。アングの冥福を皆さんと一緒に祈りたいと思います。

(補足) 大震災の5日後に生まれたライオン3兄妹の話を中心に復旧までの話を連載した「どうぶつのくに」で、再びかみね動物園の連載がスタートしました。興味のある方は、訪ねてみて下さい。

[「どうぶつのくに.net」](http://どうぶつのくに.net) (新しいウィンドウが開きます)

2013年4月16日

新人さん、いらっしゃーい

うーん、テレビ番組のパクリのようなタイトルですが、春は、学校なら新入生が、会社や役所なら新採職員が入ってくる季節です。かみね動物園でも、ここ2年、初々しい(かな?)新人の飼育職員が入ってきていますが、平成25年はゼロ。その代わり、と言ってはナンですが、新しい動物たちが続々とやってきています。

すでに、お知らせ欄では紹介していますが、先頭を切って入ってきたのが、仙台市八木山動物公園からやってきたオナガザル科のアビシニアコロブス。かみね動物園では、初の展示となります。個人的な話になりますが、実は、アビシニアコロブスは園長なりたての頃、あちこちの動物園を勉強がてらにまわっていた時、黒と白との優雅なコントラストに魅せられ「うちにもいたらいいなあ」と、密かに思っていた動物です。

平成24年、八木山に行った時、園長から「どうですか」と、お誘いを受け、その時は「やったー。」と思ったものの、顔には出さず、「そうですね、じゃあ飼育と相談しながら検討させてもらいます」と、もったいぶった対応をさせていただきました。当時の園長さん、ありがとうございました。そんなコロブスくんは兄弟で2頭、今のところオス同士ながらも仲良さ兄弟のようです。リーフイーターとお知らせでは紹介していますが、担当飼育員の話ではシラカシやベニカナメが大好物とのこと。3つにわかれた胃の中の細菌がセルロースを分解してくれるため、葉が主体であっても効率的な栄養摂取ができるようです。



アビシニアコロブス兄弟・テッペイ（左）とタイガ（右）

次に入ってきたのがマーモセット科のコモンマーモセット。私に来る前は飼育展示していたようですが、今回、10年ぶりに戻ってきました。こちらは秋田市大森山動物園と上野動物園からやってきました。体長20センチメートル程度の小型のサルですが、顔つきはしっかりしていて、特にオスの凛々しい顔はちょっとした俳優さん並み。それも結構「濃い」系「の」。動きも小刻みで、写真を撮るにもシャッターを押す瞬間に動かれたりして。こちらはオス1頭とメス3頭なので、早くも期待しちゃいます。



マーモセット勢ぞろい



端正な顔立ちのオス

また、長らく単身生活を送っていたメスのコツメカワウソ「あんず」にオスの「ジュン」がサンシャイン水族館からやってきました。

いきなりの同居にどうなることかと思ってましたが、案外すんなりとお互いを受け入れたようです。あんずのお母さんは、2回の出産で計5頭の子どもを産んでいるので、あんずには「目指せお母さん。」、ジュンには「がんばれ。」と小さく声をかけています。



仲良くなってくれたらいいな・左：ジュン 右：あんず

この他にも、シバヤギのオス・メスが秋田市大森山動物園からやってきたり、繁殖を目指してアメリカビーバーやアフリカタテガミヤマアラシ、レッサーパンダなどが今後も続々と入ってくる予定です。期せずして集中したこの春の来園ラッシュ。みんな早くかみねの水に慣れ、ますますにぎやかな動物園になってくれることを期待したいと思います。



首から名札をブラ下げた新人シバヤギさんたち

2013年4月10日

過去の一覧

[令和6年](#)

[令和5年](#)

[令和4年](#)

[令和3年](#)

[令和2年](#)

[令和元年](#)

[平成30年](#)